

8月26日に令和3年第3回富里市議会定例会が開会いたしました。

まずは、八街市で発生しましたトラック事故による児童の死傷事件、また、大規模な土石流が発生した熱海市伊豆山地区をはじめ、今月の14日以降、九州地方を中心とする広い地域に降り続いた、大雨により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災されました地域や皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、市民の皆様には長きにわたり、御不安と御苦勞が続いており、大変申し訳ない思いでおります。

全国的に感染が拡大している中、千葉県においても、感染者数は、連日、過去最多を記録しており、3回目となる緊急事態宣言も、期限が9月12日まで延長することとなりました。

本市においても、感染者は急増しており、8月に入ってから感染者数は、8月25日時点で合計175人を記録し、7月同日の感染者数の合計と比較すると、8.3倍に増加している状況です。

また、8月25日現在の累計感染者数691人は、本市の人口約5万人に対し、1.4%に近い割合を占めており、千葉県内でも高い感染比率であることから、感染の拡大が深刻化しています。

一方、ワクチン接種は、接種対象者およそ4万6千人に対し、7月末の接種完了を目標としていた65歳以上の高齢者は85%の方が接種を完了しています。

また、8月24日時点で、全対象者のおよそ62%の方が1回目の予約をしており、接種率は、1回目が58.1%で、2回目の接種率は44.7%と、いずれも千葉県の平均値を超えている状況です。

市としましては、これ以上の感染拡大を防ぐためにも、「決め手」となるワクチンの十分な供給と、市民の皆様が円滑な接種を進められるよう体制を維持してまいります。

また、感染者を年代別で見ると、千葉県と同様に20代と30代が極めて多く、接種率についても、同世代の接種率が低い状況であり、今後は、推進を図る上では千葉県との連携こそが、重要となることから、

○若年層への接種推進については、千葉県として、強力な呼びかけを行うこと、

○また、若年層のワクチン接種率を促進するため、接種に伴うインセンティブの付与などを検討いただくこと

について、昨日、千葉県知事に対し、緊急要望を提出いたしました。

長引くコロナ禍において、本市では、これまで、富里市独自の支援パッケージを打ち出し、「新しい生活様式」の定着と地域経済の立て直し

や、コロナ禍に決して負けることなく、地域に「元気」を提供し、活性化を図るなど、段階的に独自支援を発動してまいりました。

しかしながら、コロナ禍は、依然として予断を許さぬ状況が続き、3度目となる緊急事態宣言が発令されましたが、コロナ禍を乗り越えるためにも、ワクチン接種の進行と合わせ、感染拡大の防止を、一人ひとりが実践し、元気な富里を取り戻さなければなりません。

そこで、移り変わる新しい日常への取組みを支援するため、新たに、第5弾となる支援パッケージを打ち出すこととし、補正予算（案）としてまとめましたので、御審議を賜りますようお願い申し上げます。

その一方で、コロナ禍により変化する、新たな暮らしにおいても、しっかりと向き合い、気を緩めることなく、次の富里の姿に向け、各施策を着実に進めていかなければなりません。

(1) 本市ではじめての「観光・交流の拠点」を目指す、(仮称)末廣
農場整備事業について

本年6月17日に、共同事業体代表企業 株式会社市川工務店と施設の建設に関する、設計・施工一括請負契約を締結し、市が目指す施設のコンセプトと導入機能を踏まえた十分な協議を定期的に重ね、9月中旬には、実施設計が完成する見込みです。

また、施設の管理運営については、民間のノウハウを最大限に活用し、「おもてなし」や「ふれあい」など、質の高いサービスを提供できるように、指定管理者の「公募」を行い、本年7月27日に指定管理者を「選定」したことから、指定管理者の「指定」について、議案としてまとめさせていただきましたので、第5弾の支援策と合わせ、御審議を賜りますようお願い申し上げます。

今後も、本施設が目指す、「地域一体で来訪者をもてなす、地域による地域のための拠点」の形成に向け、主役である市民の皆様へ、本施設の魅力を発信してまいります。

(2)「市街化区域の用途地域の見直し」について

千葉県との都市計画に関する調整が終了し、本年7月30日に、市街化区域と調整区域を線引きした、昭和54年以来、42年ぶりに市街化区域内の用途地域を大幅に、変更しました。

具体的には、市街化区域の約13パーセントに当たる約62ヘクタールを、主に低層住宅の建築を目的とした地域から、店舗や事務所などが建築可能な地域へ変更いたしました。

変更時には、市街化区域を8つの地域にゾーニングし、これからの高齢社会を見据えた、歩いて暮らせるまちづくりである“コンパクトシティ”の実現に向け、生活利便施設の誘導と集積により、子どもや高齢者が暮らしやすいまちづくりを進めていくこととしています。

今後は、8つの地域の実現に向けて進むためにも、まずは、日吉台地域は、高齢世帯の増加と、店舗や事務所の衰退が深刻化している一方で、日吉台地域の発展に大きく寄与してきた成田空港は、今後、更なる機能強化に伴う波及効果が期待されているところです。

日吉台地域については、次世代に向けたまちづくりをテーマに、若手職員17名で組織する庁内勉強会を立ち上げ、これまで5回の勉強会を開催し、日吉台地域の課題の洗い出しや課題に対する解決策等の研究を行っております。

今後は、地域住民の方々を交え、まちづくりの研究を進めていけるよう、準備を進めてまいります。

七栄北新木戸地区については、土地区画整理事業により整備を進めております。

現在、富里インターチェンジ前の区域に着手し、特に、土地利用が求められる区域からも、土地所有者と協議を重ね、計画的に進捗を図っております。

なお、令和2年度末現在の進捗率は、50.1パーセントとなっており、今後も引き続き、全体の完成を目指し、事業を推進してまいります。

また、それ以外の用途地域の見直し区域については、コンパクトシティに向けて加速させるために、本年9月1日より経済環境部商工

観光課に任期付短時間勤務職員として、企業誘致専門員を配置いたします。

今後は、専門員を中心に、コンパクトシティを実現するための各種業務機能の誘導と、都市的未利用地の高度利用の促進を図ってまいります。

あわせて、市街化調整区域においても、「土地利用方針及び地区計画ガイドライン」に即した土地利用を積極的に誘導するため、令和2年9月に策定した「富里市企業立地促進条例」を推進し、積極的な企業誘致と市街地形成を行ってまいります。

(3) 森林の適正管理と保全を目指す、富里市森林再生プランについて

現在、森林所有者からの相談を順次受け付けており、円滑な森林再生へと移行できるよう、森林所有者と森林組合をコーディネートし、整備に向けた調整を進めております。

今後は、富里市森林再生プランをより一層推進するため、千葉県森林組合とあらためて、「森林再生の推進に関する協定」を本年9月16日に締結を予定しております。

なお、千葉県森林組合では、森林再生に向けた、協定締結は千葉県内で初めてのものと伺っております。

(4) 富里の未来を創造する「次期総合計画」について

令和元年の相次ぐ台風や大雨では、本市も甚大な被害を受け、再生に向けた一歩を踏み出そうとしている最中、未だ先が見えないコロナ禍により、社会情勢が一変し、日々の生活にも大きな影響を及ぼしております。

また、社会問題であります、本格的な人口減少社会、DX推進計画に基づくデジタル化への移行、国土強靱化による災害への取組、成田空港の更なる機能強化への対応など、社会環境の変化や、さまざま要素に柔軟に対応した、きめ細かな取組が求められています。

本市の「総合計画」では、こうした社会構造の変化に対し、行政は、市民・企業・大学などと緊密につながり、人やモノがいきいき元気に動き、富里の宝である人材や資源を未来へつなぐことを念頭におき、計画を策定しているところでございます。

これまで、庁内で組織する総合計画策定本部会及び専門部会等により議論を重ね、総合計画（素案）について、取りまとめてまいりましたが、今後は、基本構想（案）を策定し、年内中の基本構想審議会への諮問、答申に向け、進めてまいります。

(5) 住みよいまちづくりには欠かすことのできない、公共交通について

地域公共交通体系の充実を図るため、富里市地域公共交通計画の基礎資料となる、公共交通に関するアンケート調査を実施したところでございます。

特に、アンケートでは、広く意見を求めることから、無作為に抽出した市民3,000人に加え、富里高校の生徒735人を対象とした他、デマンド交通の利用者に対し、アンケートを実施しました。また、現在、防災・防犯メールの登録者にもWeb回答によるアンケートを実施し、幅広く意見を伺っております。

今後は、アンケート結果を集計・分析し、日常の移動手段や交通空白地域の把握、免許の保有状況など、地域の特性や課題を、さまざまな視点で整理し、合わせて、関連する事業者等との協議を深めるとともに、市民、有識者、交通事業者などで構成する地域公共交通会議で議論を重ね、地域にあった交通体系の構築を目指し、公共交通計画を策定してまいります。

(6) より住みやすい暮らしへと移行するための、デジタル化の対応について

本年6月に策定いたしました、「富里市DX推進計画骨子」を基として、富里市情報化推進委員会を中心に、推進計画策定専門部会、ワーキンググループを設置し、全庁体制で取り組んでいるところでございます。

国が重点項目と位置付けている行政手続のオンライン化や、基幹系情報システムの標準化等を含め、本市の実情に合わせた「仮称・富里市DX推進計画」の策定に向け、これまで、情報化推進委員会をはじめとする庁内会議を開催してまいりました。

今後は、9月中にDX推進計画（案）をとりまとめ、パブリックコメントを実施し、本年10月下旬を目途に、推進計画を策定してまいります。

（7）行政施策を推進するための、行政アドバイザーについて

令和2年4月1日に施行した、「富里市行政アドバイザー設置要綱」に基づき委嘱されます。行政アドバイザーは、高度な専門的知識及び経験、優れた識見を有する方で、助言及び指導を行っていただくことを主な目的としております。

現在、すでに、1名の行政アドバイザーが観光分野において、戦略的かつ効果的な情報発信など、助言をいただいております。

また、環境施策の見直しに向け、アドバイザー1名の方の委嘱を予定しております。

今後も引き続き、本制度を活用し、行政施策の推進に当たってまいります。

（8）富里の特色が表れ、地域資源を活かす「ふるさと産品」について

市内で生産された農産物等を使った商品や、製造・加工された商品を「富里市ふるさと産品」として推奨しています。

この度、8月3日に開催された「富里市ふるさと産品育成協議会」において、3社から、5商品が推奨され、2年ぶりに、新たな「ふるさと産品」が加わりました。

「富里市すいか条例」の制定を契機に、これまで、成長過程をたどった「すいかポスター」など、富里のすいかのPRに努め、マスコミでも多く取り上げられましたが、今回の5商品についても、すべて「すいか」に関連する商品が推奨されており、あらゆる場面でPRの効果が波及していると受け止めております。

ふるさと産品は、全21商品となりますが、今後は、それぞれの商品の特色と産品の魅力を発信し、「富里のふるさと産品」を広めてまいります。

(9) 生活困窮者世帯に対する、「とみさとフードバンク」の開設について

本制度は、一般家庭や企業などの不用な食品、あるいは、市場に流通できない食料などを無償で提供いただき、生活困窮者に食料支援を行う制度です。

市としましても、庁内に食品回収ボックスを設置し、支援に協力するとともに、社会福祉協議会では緊急的に食料が必要な世帯に対し食料を支援してまいります。

(10) 本市における、通学路の交通安全対策について

八街市での事件の発生以降、通学路の再点検を緊急に行った上、本年8月5日に、成田警察や千葉県を交えた「富里市通学路安全推進会議」を開催し、安全対策が必要な通学路の情報共有とともに、対策方針の検討を進めてまいりました。

特に、視界環境の有効性を発揮する、安全対策として、道路の外側線より外側を緑色に着色する、「グリーンベルト」のカラー舗装も有効であると認識しており、緊急対策として、当初計画していた4路線を前倒しし、夏休み期間中に、グリーンベルト舗装を実施しています。

今後は、本年度中に、「グリーンベルト」や「外側線の補修」等の安全対策を進めるとともに、用地の確保や歩道整備等の大規模な整備は、関係機関と協議を進めながら、計画的に取り組んでまいります。

(11) 令和3年 富里市成人式の再延期について

深刻化する感染症の感染拡大、また、緊急事態宣言下の中、感染者数も日々過去最多を記録している状態であり、このままの感染拡大が続くと医療提供体制は極めて、ひっ迫し、危機的な状況となってまいります。

開催の可否については、医療機関をはじめ、関係機関からの様々な御意見を踏まえ、新成人の皆様の健康と安全を第一に、やむを得ず成人式を再延期することを決定しました。

新成人の皆様のお気持ちを感じる一方で、苦渋の決断で再延期とすることとしましたが、今後は、感染症の状況を見極めた上で、再延期後の開催日程を検討してまいります。